

MG1018-03

会場: 304

時間: 5月23日15:55-16:10

地質情報データベースの整備および利用における現状と課題

Recent problems about development and maintenance of the geological feature information database system.

加藤 晶子^{1*}, 吉田 剛¹, 楠田 隆¹, 風岡 修¹, 酒井 豊¹, 山本 真理¹, 古野 邦雄¹,
香川 淳¹

Akiko Kato^{1*}, Takeshi Yoshida¹, Takashi Kusuda¹, Osamu Kazaoka¹, Yutaka Sakai¹,
Mari Yamamoto¹, Kunio Furuno¹, Atsushi Kagawa¹

¹千葉県環境研究センター

¹Chiba Environmental Research Center

地域の地下地質構造を理解することにより、適切な土地利用や地下水の利用、あるいは地盤災害等の対策を講じることができる。そうした地質構造の解析の調査研究において、既存の地質調査資料は有効な要素となっており、それらのデータベースも近年公的機関を中心に整備されてきている。

千葉県地質環境研究センターでは、平成3年より地質調査資料の収集、デジタルデータベース化を行ってきており、当センターにおける調査研究をはじめ県内各部署への業務支援とすると共に平成14年度より「千葉県地質環境インフォメーションバンク」として地質柱状図をWeb公開している。このデータベースの具体的な利活用としては、当センター最近の調査研究として、常総粘土層の分布調査（加藤ほか2008）、幕張地域の沖積層の構造の研究（加藤ほか2009）等を行っているほか、県・市町村による構造物等工事の事前調査、液状化対策、地震動予測、地下水涵養などの基礎資料とされている。またWeb公開データベースについては、アンケート結果より、建設分野での利用が多く、ついで研究・教育関係となっている。これら現在までの経緯をふまえ、データベースの整備と利用に関する課題について述べる。